

計画平面図S=1:500
(※参考図面・現況優先)

凡 例	
	計画高
	区画番号
	面積
	流水方向
 泥だめ15cm グレーチングT14	重圧管φ150 1%以上 L型側溝
	
公園は穴あき蓋を使用  泥だめ15cm	最終側φ350 深さ0.9以下 VUφ150 i=1%以上 土被り0.6m 以下、 コンクリート保護
	給水管φ20 量水器
	水道管切替φ50
(汚水)  インバート	1号マンホール T-14 PRP管φ150
(汚水)  インバート	最終側φ200 深さ1.0以下 VUφ100 i=1%以上 土被り0.6m 以下、 コンクリート保護
	開発区域界

開発道路		
A開発道路L=14. 532m	i=0. 96%	N1~C1
A開発道路L=1. 799m	i=0. 55%	C1~C2
A開発道路L=17. 487m	i=0. 80%	C2~C3
A開発道路L=2. 743m	i=0. 72%	C3~C4
A開発道路L=14. 703m	i=0. 47%	C4~C5
A開発道路L=5. 729m	i=0. 34%	C5~C6
A開発道路L=58. 74m	i=0. 62%	C6~E1
B開発道路L=5. 00m	i=2. 4%	N2~C7
B開発道路L=28. 183m	i=0. 56%	C7~C8
B開発道路L=33. 590m	i=0. 20%	C8~C3
C開発道路L=30. 950m	i=0. 38%	C2~E2
D開発道路L=30. 940m	i=0. 35%	N3~C1
E開発道路L=30. 974m	i=0. 32%	C4~E3
F開発道路L=30. 304m	i=0. 26%	C5~E8
G開発道路L=20. 235m	i=0. 39%	N4~E4
H開発道路L=32. 477m	i=0. 33%	N5~E5
I開発道路L=23. 128m	i=0. 30%	N7~N4
I開発道路L=17. 822m	i=1. 29%	N4~N5
I開発道路L=16. 152m	i=2. 16%	N5~E7



(注) マンホールとPRP管の接続はマンホール可とう継手を使用すること。

本管への接続は支管接合とする。

管内排水土の埋まりは2.0 cm以上とする。

管交差部分では、10 cm以上のクリアランスを確保すること。

取付管の配分は1%以上とし、断面方向の接続位置は本管の中心線より上方とする。

マンホールの管きよ接続の剛直間隔(残り代)は内面側で10cm 以上確保する。

開発協議は最終樹から一次放流先までである。

樹根の放流管は樹の穴をふさがないこと、管を曲げないこと。

予定建物や用途は(一戸建て住宅)とする。

開発区域以外に構造物が無い所には境界紙等の開発協議にて区域界の表示とする。

本管上での取付間隔は1m以上を確保すること。

図面内の高さの表記は任意高さとし、KBMで標高(T.P.表示)換算している。

電柱を開発道路内に設置しない。

施工前に地下埋設物の確認を行うこと。

本管区域に隣接して本開発許可の完了公告日からみなし年数以内に開発行為を行う場合及び本開発区域内の公共施設を変更する場合は、建築指導課と協議すること。

開発区域外の法定外水路については構造物のみ審査対象とする。放流の同意については管理者と十分に協議を行うこと。

30 cm未満の高差差に用いる土留め壁は、審査対象外であるので設計者の判断による。